

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	苫小牧市	代表者名	岩倉 博文
担当者部署	総務部	連絡先電話番号	0144-32-6196
担当者役職	主幹	担当者氏名	川合 基央
住所	059-8722 北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号		

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	村越 功司
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	DXの本質は、デジタル（D）ではなく、ゲームチェンジ（X）にあり、自分がゲームチェンジャーとなり、組織としてゲームチェンジャーを如何に増やしていくかという研修内容は斬新であり、参加者全員のDXに対する印象は大きく変わったと思います。 また、自らの経験に基づき、ゲームチェンジャーとなる上でのポイントとゲームチェンジャーを増やし・伸ばす上での上司としてのポイント等を伝えてもらい、大変参考になりました。 参加者からの同感するコメントも多く、参加者にとって、とても満足感のあるワークショップになったと感じています。
アドバイザーへの要望事項	来年度も可能であれば、対象範囲を管理職などに固定して、同じワークショップを開催したいと考えています。前段の村越さんの内容が印象的過ぎて、下山さんの内容が陰ってしまった感があるので、前後入れ替えた場合、話の流れ的にはどうでしょうか。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和6年2月9日	支援・助言（実地）	有	令和5年12月12日	1077
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年2月2日	支援・助言（実地）	10時00分	16時00分	120
				活動時間（分）	240
3-2. 派遣場所	会場名	苫小牧市役所9階会議室	最寄駅	JR苫小牧駅又はバス市役所前	
	所在地	北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号	最寄駅からの交通手段	JR苫小牧駅からはバスはタクシー、バス市役所前（空車乗車/バス利用の便益）からは徒歩	

4. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
------	--------------------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	市職員 及び 社会福祉協議会職員	59 人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・職員に標準化を除くDXの意識がなく、DXを自分事として意識させることが課題 ・システムに苦手意識を持つ職員への意識醸成 ・意識改革のターゲットをどこにしたら、効率的に意識を変えられるか。 ・オンライン手続きやRPAなど、DXのベースとなるサービスはあっても、職員が使いこなせていない。 など	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	・システム部署ではない職員が、DXに向けた意識を持つこと ・個々の職員がDXに取り組まなければならないという意識を醸成すること	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	・午前1回、午後1回のワークショップを開催し、職員のDXに対する認識を変えてもらった。 ・DXを進める上で、一般職、管理職のそれぞれの立場において、心がけておくべきポイントをしてもらった。 ・業務において参加者が個々で疑問や問題意識を持っている点について、匿名のアンケートを活用することで、通常よりも多くの意見が発言され、その上でその場で個々に回答をいただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	・職員のDXに対する意識を、デジタル（D）からゲームチェンジ（X）主体に変えることができた。 ・今回のワークショップは、参加希望者を対象としたため、DX推進派が多いと考えるが、管理職に受講を求める意見が多く、推進派にとってのDXの壁は上司にあることが把握できた。 ・これまで、ほとんどの職員がDXへの関心がないものと考えていたが、匿名で意見を求めることで、関心や興味がある職員は一定程度いて、職場環境などを理由に諦めてしまっていることが推測できた。 ・組織全体の意識を変えて、興味のある職員が意欲的に取り組める環境を整える必要性を認識できた。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他
	<ul style="list-style-type: none"> 参加職員のDXに対するマインドチェンジが最大の成果 個々の職員が抱えていた疑問点等を個別に回答いただけたことは、本人にとっては大きな成果
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> 組織全体のDX意識を変えていく上では、実行層の意識を変えるだけでなく、経営層、管理層の意識も変えていくことが必要である。 今回のワークショップで出された意見には、管理職への受講を求める声が多く、管理職に同様のワークショップに参加してもらい、管理職の意識を変えていくことが今後の課題と考える。
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>別紙のとおり</p>
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	今回希望者で行ったワークショップの対象を拡大して開催し、組織全体のDX意識を変革し、DXを上からも下からも進めていく環境とする。

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

